

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	09 教育費	05 社会教育費
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業			
中事業	32	主要な取り組み	KPI	-	目標値 -
小事業	04	文化の森事務			
			目標年度	令和6年度	

インプット

事業実施の背景にある課題	本事業と施設管理事業の歳出項目及びKPI等が混同した状態である。 KPIを入館者数としているが、コロナ禍明けでの人の流れをつかみ切れていない。
事業目的	(1) 対象(誰、何を対象にしていますか) 市内外を問わずどなたでも (2) 目的 文化の森の施設を活用したり、企画展などを鑑賞したり、仕事や読書・遊びなどで幅広い年齢層の方に利用してもらうことで、生涯を通して文化・芸術に親しむ人たちを育てる。
事業概要	○みのかも文化の森における博物館や美術館及び学習施設としての管理・運営に伴う一般事務を行う。 ○より効果的な博物館や文化振興事業を推進するため、施設の利用者や文化団体等の代表者で組織する文化の森運営協議会を開催したり、美濃加茂市民ミュージアム専門委員に専門的な指導や助言を受ける。
事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06
予算額	5,026 5,509 5,770 4,468 7,815
決算額	4,174 4,720 5,101 4,175
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	2,015 / 936

アウトプット

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
広報媒体紹介件数	目標値	230	230	230	230	200
	実績値	202	150	151	140	

アウトカム

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
入館者数	目標値	80000	80000	80000	90000	60000
	実績値	33380	53310	58471	61152	

↓

実績	実績	・ミュージアムニュースの発行(年4回) ・ホームページ、森の日記の公開 ・インスタグラム、すぐメールでの情報発信 ・新聞、雑誌、ラジオ等で事業のPRを実施
効果	効果	コロナ禍前の状態を目指して平静の状態になるような活動方針で進めた。
評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	社会的な人流をつかみ切れていない。職員の長期離脱が相次ぐ等、圧倒的な人員不足に陥った。
評価分析	評価分析 目標値の達成 ・未達成要因	今一度現実を直視して、実態に即した数値を設定する。
実績からR06年度の事業の方向性	実績からR06年度の事業の方向性	KPI数値の見直し 県域全体のイベントが開催されるため、その影響をプラスにつかみたい。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	09 教育費	05 社会教育費
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業			
中事業	32	主要な取り組み	KPI	-	目標値 -
小事業	14	資料調査整理事業			
			目標年度	令和6年度	

事業実施の背景にある課題	地域から集まる歴史、自然、考古、美術、民俗資料について、その文化的価値を調査、研究し、適切に保存しながら後世に引き継いでいくことが地域博物館の役割である。そして、その研究成果、魅力を展覧会やホームページなどで公開、また刊行物として発行することで、市民に美濃加茂市の魅力を伝え、文化的関心を深め、地域への誇りと愛着を育むこと、また、地域内だけでなく、全国、全世界へ発信することで、美濃加茂市の知名度を上げていくことが必要。
事業目的	(1) 対象 美濃加茂市民ミュージアムの資料等（考古、歴史、民俗、自然史、美術、人物、書籍等） (2) 目的 美濃加茂市の文化的価値や魅力を持つ資料を展示やホームページなどで普及、発信することにより、青少年の教育や市民の関心・活用に役立てる。 市民の文化的関心を深めるとともに、全国の研究機関等で利用されることによって、美濃加茂市の知名度や評価が高まる。
事業概要	地域関連の資料を収集。 文化財、美術資料、地域の歴史・文化資料等の調査、記録。 収蔵資料の修復、燻蒸、写真デジタル化、レプリカ作成等による保存。 研究の成果をまとめた研究紀要、地域の歴史・文化を紹介する冊子等の刊行。 ○収集資料をデジタルアーカイブ化し、HP等で発信したり、展示したりする。
事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06 予算額 3,183 3,321 3,377 5,380 9,481 決算額 2,776 2,973 2,987 4,858
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	1,010 / 3,360

活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
美濃加茂事典入力数の合計	目標値	790	870	900	950	1000
	実績値	793	848	921	1022	

KPI（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
資料閲覧貸出等の点数200点以上	目標値	200	200	200	200	200
	実績値	370	222	216	109	

実績	実績	・資料閲覧貸出点数 200点 ・美濃加茂事典HP掲載 入力130件 累計1051件 ・刊行物 紀要第23集 A4 106p
	効果	地域に根差したミュージアムという基本的な考え方のもと、自然史、考古、歴史、民俗、美術工芸、文化などの広範囲な分野の資料や標本、作品、そしてそれに関する情報を収集し研究・保存することができた。
評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	この地域に関する情報を一つ一つ調査・研究・整理した結果として、「美濃加茂事典」への登録が1000件を超えることができた。
	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	美濃加茂事典をはじめとしたオンラインでの資料検索・閲覧等の環境を向上させたことで、直接「もの」を閲覧するという需要がなくなってきたいと感じる。
アウトカム	実績からR06年度の事業の方向性	引き続き、「地域的な特徴・特性をあらわし価値があると認められるもの」、「学術的に価値があると認められるもの」、「現代の社会に発信・提起するミュージアムとして収集する必要があると認められるもの」の3点に重点を置き、資料の収集・調査を行っていきたい。

インプット

アウトプット

アウトカム

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	09 教育費	05 社会教育費
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業			
中事業	32	主要な取り組み	KPI	-	目標値 -
小事業	15	埋蔵文化財調査・整理事業			
			目標年度	令和6年度	

インプット	事業実施の背景にある課題	市内にある埋蔵文化財を把握し、遺跡の分布調査、出土品の整理、保存、復元を行うことで、地域の考古的文化財の調査、研究、保存に努め、後世に引き継ぐことが求められる。また、開発業者、公共事業担当部署との連絡、協議を円滑に行うことで、開発や工事等で埋蔵文化財が調査されずに滅失することを防ぐ必要がある。
	事業目的	(1) 対象 埋蔵文化財（遺跡、出土品、記録等） (2) 目的 市内にある埋蔵文化財を把握し、分布調査、開発や工事等の協議、調整。出土品の整理、保存、復元を継続的に行う。その結果をデジタルデータ化することで開発や工事等に係る文化財保護を円滑に進める。 調査結果とともに一般公開したり、小中学校の学習に活用することで、市民が文化的関心を深め、地域に誇りを持つことができることをめざす。
	事業概要	文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の展開 発掘された出土品の調査・整理・研究並びに遺物の修復復元作業。 遺物の保存・管理・台帳整理、並びに、デジタルアーカイブ化。
	事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06 予算額 1,932 1,784 1,934 1,838 1,838 決算額 1,750 1,528 1,303 1,625
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	770 / 0

活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
埋蔵文化財包蔵地の分布調査件数	目標値	250	250	250	250	250
	実績値	385	217	477	392	

KPI（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
台帳及びデジタルデータ登録数700件以上	目標値	350	1000	700	700	700
	実績値	1976	657	857	840	

評価分析	実績	・遺物整理、製図台帳、データ作成 700件 ・埋蔵文化財包蔵地発掘調査、協議 220件 ・太田小6年生（2日）、加茂野小6年生（2日）、下米田小6年生（1日）、三和小6年生（1日）、双葉中1年生（2日）について、 授業内容（A）社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」 授業内容（B）「総合学習」 を見込んでいる。
	効果	主に学校活用において、文化の森が立地している尾崎遺跡考古資料を中心 に、それを見つけ出した人、作った人、使っていたひと、考え関わった人 などを感じさせる、その状況に思いを馳せるような学びを提供することができた。
	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	整理作業工程が煩雑となる性質をもつ埋蔵文化財が、事前の想定よりも少 なかつたため、作業進度を増すことができた。
KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	市内で、新たな開発等を計画する事業数が、増加したことによる。	
	実績からR06年度の事業の方向性	埋蔵文化財包蔵地の分布調査件数等の情報をデジタルデータとして落とし 込み、埋蔵文化財包蔵地等を職員間で共有できる仕組みを構築していくた いと考える。

アウトプット

アウトカム

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	09 教育費	05 社会教育費
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業			
中事業	32	主要な取り組み	KPI	-	目標値
小事業	16	文化財保護管理事業			
			目標年度	令和6年度	

事業実施の背景にある課題	近年、価値観の多様化等により文化財への理解が希薄になり、また少子高齢化による地域の担い手不足の影響などにより、貴重な文化財、地域に根付いた文化資源の滅失・散逸などが課題となっている。
事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 市内にある文化財 (2) 目的 文化財の保護・保存・修復、公開（一般、ホームページ）、教育普及などの活用を通して、文化財に対する理解、継承する機運を育み、自分たちの住む地域にある文化財や文化資源を知ることで、地域に愛着を持ち、市民の誇りとなるまちづくりをすすめる。
事業概要	重要文化財の旧太田脇本陣林家住宅防災設備保守、保存修理。 重要文化財の旧太田脇本陣林家住宅隠居家の公開。 津田左右吉博士記念館の保守、活用。 美濃加茂市文化財保存活用地域計画作成業務。 その他文化財や民俗芸能等の保護・保存。
事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06
予算額	7,744 10,196 16,166 12,452 12,315
決算額	6,698 8,745 14,146 12,057
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	1,070 / 180

活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
文化財管理、保存、修理補助事業 達成件数	目標値	5	5	5	5	5
	実績値	6	5	5	5	

KPI（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
隠居家入場者数7,000人以上	目標値	5500	7000	7000	7000	7000
	実績値	4073	5075	4984	2375	

実績	実績	・旧太田脇本陣林家住宅隠居家の公開 2,375人（9月末） ・津田左右吉博士記念館利用者数 300人 ・文化財保護費補助金 旧太田宿脇本陣林家住宅（修理・管理） 563千円 ・民俗芸能保存事業補助金 2団体 108千円
	効果	市民共通の財産である文化財を大切に後世に繋ぎ伝えていくことが今を生きる私たちの使命であることは間違いないし、そうしなければならないものと考える。
評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	最低限の維持管理を実施
	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	林家住宅隠居家の入場者数をKPIとしているが、中山道太田宿を観光で訪問する方がその中のコンテンツの一つと位置付けられ、林家単独で入場者数を増やすことは得策ではない。太田宿の観光という視点でのテコ入れとタイアップが今後の鍵になると考える。
アウトカム	実績からR06年度の事業の方向性	できる範囲内での維持管理を進めていく。

インプット

アウトプット

アウトカム

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	09 教育費	05 社会教育費
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業			
中事業	32	主要な取り組み	KPI	-	目標値 -
小事業	17	積み重ねていく大学との連携事業			
			目標年度	令和6年度	

インプット	事業実施の背景にある課題	文化の森に収集されている資料の整理、台帳化等について、その分野は多岐に渡るため、全てを館の学芸員のみで行うことはできない。そこで、大学の専門性を活用するなど、地域の大学と連携して進めることが必要となる。
	事業目的	(1) 対象 美濃加茂市民ミュージアムに収集されている資料 (2) 目的 文化の森に収集されている資料を各大学の知と経験を活用して体系的に整理、台帳化し蓄積を行い、その成果が一般市民の疑問解決や他機関による研究に利用されたり、講演会や講座などを開催したり、里山整備、地域づくりを進める基礎資料とされるなど、地域における学術活動に活かされることを目指す。
	事業概要	○大学と連携した古文書や自然分野関連資料の整理、蓄積、研究成果の発信 ○レプリカや標本作成。 ○自然史系等の講座の開催。
	事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06 予算額 1,104 1,207 1,173 1,094 1,199 決算額 827 708 891 1,094
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	120 / 180

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
資料整理件数	目標値	2000	2000	1000	1000	1000
	実績値	1090	923	2066	1956	

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
大学連携で調査、整理した資料のデータベース化数	目標値	10	100	100	100	100
	実績値	140	162	108	140	

実績	実績	・岐阜大学(標本整理) 1,533点整理 ・愛知大学(古文書整理) 1,200点整理
	効果	岐阜大学、愛知大学との連携により、整理をしきれていなかった収蔵資料について、順次台帳に登録していくことができた。
評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	岐阜大学、愛知大学との連携により、多くの資料を整理することができたほか、展示等を通じて来館者へ紹介することができた。
	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	地域の大学と連携して進めることで、専門性の高い視点から調査した情報を、データベース化することができた。
アウトプット	これまで連携を行ってきた大学はもちろん、新たな大学との連携も模索し、博物館学の分野においても連携できる大学を探っていくたい。	
	実績からR06年度の事業の方向性	

アウトプット

アウトカム

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	09 教育費	05 社会教育費
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業			
中事業	32	主要な取り組み	K P I	-	目標値 -
小事業	18	人物顕彰事業			
			目標年度	令和6年度	

事業実施の背景にある課題	坪内逍遙、津田左右吉をはじめとした偉人、地域と関わる重要な人物の功績を顕彰し、後世に引き継いでいくことで、地域の魅力を高めることが必要である。
事業目的	(1) 対象市民 (2) 目的 人物顕彰に関わる質の高い文化事業（逍遙大賞、学生野外劇、講演会、ワークショップ等）などを実施することで、郷土の魅力を高め、文化芸術を身近なものとし、市民文化の向上を図る。地域の偉人について知ることで、自分たちの住むまちに愛着と誇りを持つことができる。
事業概要	○人物顕彰事業 ○坪内逍遙大賞事業 ○早稲田大学と連携した文化交流事業 ○早稲田大学と連携した学生野外劇
事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06 予算額 8,321 5,063 7,755 6,687 12,067 決算額 3,633 1,590 6,746 6,281
年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	1,560 / 540

活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
人物顕彰関連事業の参加者数	目標値	1600	1200	1600	1200	1600
	実績値	466	900	1180	3047	

K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
人物顕彰関連事業の参加者の満足度を80%以上	目標値	80	80	80	80	80
	実績値	0	0	87	80.6	

実績	実績	坪内逍遙大賞関連事業 600人 ・早稲田大学野外劇ワークショップ 10人 ・その他の人物顕彰事業（津田作文集出品者、顕彰会活動等）900人
効果	効果	早稲田大学と美濃加茂市で所蔵する資料を併せ、早稲田大学と美濃加茂市を巡回する共催展の開催をはじめ、早稲田大学の学生による先鋭的な演劇公演や、逍遙の精神を受け継ぐような古典芸能の公演などを通して、多くの人たちに、地域の偉人についての学びの機会を提供することができた。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	津田左右吉の生誕150年の年でもあったため、津田をテーマとした企画展を年度内に2回行い、その結果参加者数が大きく伸びていると考える。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	早稲田大学等の連携を通して、質の高いプログラムを来館者に対して提供できた結果であると考える。
実績からR06年度の事業の方向性		令和6年度は坪内逍遙大賞開催の年であるため、逍遙を軸とした人物顕彰事業に注力し、市の偉人としての逍遙の存在感を高めていきたい。

インプット

アウトプット

アウトカム

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	09 教育費	05 社会教育費
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業			
中事業	32	主要な取り組み	KPI	-	目標値 -
小事業	19	展示事業			
			目標年度	令和6年度	

事業実施の背景にある課題	博物館は、資料収集・保存、調査、展示を一体的に行う施設である。地域から集まつた様々な資料を調査、研究して蓄積した成果を展覧会などで紹介し、資料の文化的価値や魅力を伝えていくなど、社会教育施設として学びの場を提供する役割を持つ。地域に関する資料は、そのままで散逸したり、滅失されてしまう恐れがある。その文化的価値を調査、研究し、展示へと結びつけることで、その文化価値を市民に知ってもらい、地域の宝を次世代へと継承していくことが必要となる。
事業目的	(1) 対象市民 (2) 目的 様々な企画展、常設展示室等の展示を通して、美濃加茂市の文化的価値や魅力を発信し、市民が芸術文化に触れる機会や場を提供することで、市民文化の向上と新たな探求心が育まれることをめざす。
事業概要	○資料収集・調査研究により蓄積された情報を展覧する事業 ○常設展示室と連携し、情報学習室を防災教育への活用をめざした地域・防災情報室として改善する。
事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06 予算額 6,973 8,641 8,142 7,901 8,191 決算額 5,710 6,558 6,283 6,945
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	1,210 / 2,820

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
年間企画展入場者数6,000人以上	目標値	6000	6000	6000	6000	6000
	実績値	4308	11905	7521	8169	

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
展覧会の満足度を80%以上	目標値	80	80	80	80	80
	実績値	84.42	84.6	83.6	80.63	

実績	実績	・津田左右吉生誕150年 「子どもの時のおもひで」を読み解く展 1,371人 ・いつも近くに石・石・石展 2,013人 ・生誕150年 津田左右吉と藝術 900人 ・瀬田哲司展 1,000人 ・石に刻む展 1,300人
	効果	館が収蔵する膨大な資料等を各企画展等を通じて紹介することで、来場者がこの地のよさや奥深さを考え、まちの再認識や誇りにつながっていく機会の提供ができたと考える。
評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	学芸員や関係機関が調査・研究してきた事柄を、企画展という形で発表することで、展示内容から「きっかけ」と「ふがま」そして「ゆらぎ」の空間を提供できた結果と考える。
	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	企画展では、展示しているモノから、さらなる好奇心へ繋げる「きっかけ」を提供するものではあるが、来館者の学びや気づきが反映された結果であると考える。
実績からR06年度の事業の方向性	館で展示・紹介されている資料は、収蔵資料の一部ではあるが、より身近なこととして伝わるよう工夫し、来場者がこの地のよさや奥深さを考え、まちの再認識や誇りにつながっていく展示を目指していく。	

インプット

アウトプット

アウトカム

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	09 教育費	05 社会教育費
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業			
中事業	32	主要な取り組み	K P I	-	目標値
小事業	21	市美術展事業			
			目標年度	令和6年度	

インプット	事業実施の背景にある課題	市民文化向上の一つとして、日ごろの文化活動の成果を発表する機会を提供することが求められている。 現代は、インターネットのSNS発達により、市民にとって、実物の作品を発表し、実物を見て、交流する機会は、減りつつある。日ごろの文化活動を発表する機会を提供することで、人とモノ、人と人の交流の場を創設することが大切となる。				
	事業目的	(1) 対象 一般市民(応募対象者は、高校生以上) (2) 目的 美術展を通して、日ごろの文化活動の成果を発表する機会を設けることにより、その発表の場を目標として市民が自己研鑽につとめ、文化活動を身近に感じ、市民文化の向上と新たな探求心が育まれることを目指す。				
	事業概要	○公募展の美濃加茂市美術展の開催 ○募集内容:日本画、洋画、彫刻・彫塑・工芸、書、写真の5部門 ○作品の展示及び入選作品の表彰				
	事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06				
	予算額	1,060	1,013	1,003	1,004	1,154
	決算額	950	919	942	952	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	410	/	350		

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
出品点数210点以上	目標値	210	210	210	210	210
	実績値	251	216	229	226	

K P I(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
新規出品者数の割合10%以上	目標値	10	10	10	10	10
	実績値	16.29	12	14	11	

アウトプット	実績	・出品点数 日本画15点、洋画95点、彫刻・彫塑・工芸30点、書27点 、写真70点 合計237点 ・出品者数 220人 うち初出品者数 30人
	効果	若い世代の発表となる事を目指し、昨年度から10代の方の出品料を無料とした結果、10代の出品が20点と増加した。一方で80代、90代といったベテランの出品者も多く活躍され、非常に幅広い世代の方々が芸術文化に親しまれている事業となっている。
	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	市内外から200人を超える出品があり、非常に質の高い、豊かで力あふれる作品が並ぶため、自身のスキルアップの場とされている人たちが多くいることが、出品点数にも反映されてきていると感じている。
評価分析	K P I分析 目標値の達成 ・未達成要因	10代の出品が20点と増加したことから、若い世代を中心に新規出品者が増えたと感じている。引き続き、若い世代へのアプローチは続けていきたい。
	実績からR06年度の事業の方向性	市美術展が、芸術文化を通じた市民の交流の機会となり、日々の生活を潤すものであり続けることを目指し、若い世代はもちろん、生涯学習の発表の場としても認識してもらえるような事業運営を行っていきたい。

アウトプット

アウトカム